



やまざき くにひろ  
山崎 邦廣 議員

## 問 防災計画の対応力向上策は

## 答 体制充実し現実に即した訓練で

今年度は、新たに、防災対策専門員を配置し、自主防災組織の育成・強化に取り組み、住民の防災に対する意識の高揚を図り「自らの命は自らが守る」ことができるよう努めている。

**町長** 町地域防災計画の改定は、県地域防災計画の改定に合わせ見直すもので、現在、計画の見直し作業を進めており、できるだけ早い時期に改定後の計画を示したい。

**議員** 防災計画を改定した後の災害対応力向上の現状を伺う。

**町長** 町地域防災計画の改定は、県地域防災計画の改定に合わせ見直すもので、現在、計画の見直し作業を進めており、できるだけ早い時期に改定後の計画を示したい。

**議員** 今後の実効性ある取り組みの考えを伺う。

**町長** 町では、これまで総合防災訓練などの各種訓練を通じ、災害時対応の確認を進めるとともに、

**災害現地での実効性**

気象観測・情報提供サービス「ポテカ」を町内7カ所で運用しており、住民の皆さんもスマートフォンやパソコンなどでリアルタイムに正確な気象情報を得ることができ、環境を構築している。

さらに、盛岡広域8市町で構成する盛岡広域首長懇談会で、域内で大規模災害が発生した際、相互支援・相互受援が確立できる体制を構築するための検討をはじめ、こうした取り組みを着実に積み重ねていくことで、町の災害対応能力の向上と、安全安心なまちづくりを努めたい。



旧小田小学校体育館で行われた総合防災訓練。有事に備え、日頃の訓練が重要です。

訓練をより現状に近い形で行うよう努めている。

9月に行った総合防災訓練では、地震災害から土砂災害を想定した訓練に変更したほか、自主防災組織を対象に避難所開設の一部を取り入れた。

このほか、課長級職員のみを対象を、実災害を想定し、防災担当課の全職員を招集し、災害対策本部の設置・運営のほか、現地会場に職員を

派遣し、避難所設置、炊出しなどのサポート、情報収集などの役割を確認する現地訓練を行った。

このように、地域住民や自主防災組織、消防団、関係機関との連携・強化と、防災訓練へ町職員の参加・拡充を進め、総合的な対応力の強化に取り組む、有事において実効性ある対応が発揮できるよう努めていく考えだ。



たつやなぎ けいいち  
辰柳 敬一 議員

## 問 総合運動公園の管理運営は

## 答 関係者と利便性向上に努める

町ではスポーツを通じた交流人口の拡大を地域の活性化につなげることを目的に「スポーツツーリズム」の推進に積極的に取り組むこととしており現在、ゲートボール場とテニスコートの改修工事を行うなどスポーツ合宿等の受け入れ拠点としての充実強化に努めている。今年度は新たに「スポーツツーリズム奨励事業費補助金」を創設し、スポーツ合宿等に伴う宿

**議員** 総合運動公園の人工芝化、野球場の改修で町民や町外の利用者が増加している。今後の管理運営について伺う。

**町長** 昨年度「希望郷いわて国体」の開催、総合運動公園の改修事業などにより、施設利用者数は25年度と比較し、約1.7倍の増加となった。

泊助成や、町外団体参加を含むスポーツ大会助成を行い、さらなる推進と誘致に努めた結果、昨年度同期と比較し100人ほどの増加となった。

そうした中、施設利用者、合宿宿泊者からは洗濯機の数が少ない、多目的グラウンドのそばに更衣室やシャワーなどの設置を望む声が寄せられている。利用者が快適かつ安価に利用できる施設環境を整えなければ、継続的な利用が見込めないものであり、体育施設の指定管理者、宿泊先となるグリーンテッジ、プラトリーなどと協議し、施設の利便性向上へ向けた検討を進める。

**議員** 野球場にはナイター照明も設置されており、今後の有効利用について伺う。

**町長** 「希望郷いわて国体軟式野球競技」の受け入れに合わせ、26年から3年かけて施設の改修を行い国体も盛会のように開催できた。そうした中、今年度の利用実績は野球競技の大会、公式試合、スポーツ少年団・中学校・高校の練習試合、葛高野球部の部活動など合わせて64件ほどの利用で、前年度とほぼ同じとなっているが、過去5年間の推移

は減少傾向となっている。今後の野球場の有効利用は、施設の主たる利用者である野球・ソフトボール競技関係団体と連携を図りながら各種大会やスポーツ合宿の誘致を進めるほか、グラウンドゴルフやターゲットボードゴルフなどニュースポーツなど他種目での活用も検討し、町民が気軽に利用できるような環境づくりを進める。



野球場で開催されたゲートボール大会。さらなる施設の活用が望まれます。